所報
平成3年9月15日創刊　平成31年1月15日発行・毎月1回15日発行・No. 314
一般社団法人 協同総合研究所 ISSN 1344-7300

協同の發見

きょうどうのはっけん

第314号
2019.1

特集 協同組合における人財戦略 ― 人が変化・成長する環境とは ―

◎ 藤田 徹　ワーカーズコープにおける人材戦略の基本と学習・教育の指針について
◎ 田村 政司　「農協における教育活動」についての問題意識
◎ 山崎 憲　人の育ちを中心とする組織戦略
◎ 池上 惇　働きつつ学ぶ通信制教育システムとは
－仕事・生活の経験を活かして仕事おこしの共有基盤を生み出そう－

■海外レポート
松本 典子　【第２回】ニューヨーク市における労働者協同組合の現状②　NMICとCFL

■協同の広場
酒見 友樹　「ともに生きる社会づくり」を映画の力とともに実現する
～映画『Workers 被災地に起つ』上映運動の始まりから見えて来たもの～

■ワーカーズコープで働く若手リーダー紹介(Vol.23)
矢藤 美紀　人との出会いから生まれたこと、変われたこと

■会員だより
曽我 逸郎　「協同労働の協同組合」の意義　－総研理事になって

■巻頭言
古村 伸宏　働き・学び・育ちが交差する、人間性の深まりと広がり

一般社団法人 協同総合研究所
JAPAN INSTITUTE OF CO-OPERATIVE RESEARCH

題字／藤原 桂州

協同の發見

第314号 2019.1

特集　協同組合における人財戦略
ー人が変化・成長する環境とはー

目 次

巻頭言

働き・学び・育ちが交差する、人間性の深まりと広がり …… 2
古村 伸宏(日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会理事長/協同総研常任理事)

特集　協同組合における人財戦略ー人が変化・成長する環境とはー

• 特集にあたって …… 5
協同総合研究所事務局

• ワーカーズコープにおける人材戦略の基本と学習･教育の指針について …… 7
藤田 徹(ワーカーズコープ未来人財部　部長/会員)

•「農協における教育活動」についての問題意識 …… 15
田村 政司(全国農業協同組合中央会教育部教育企画課　課長)

• 人の育ちを中心とする組織戦略 …… 23
山崎 憲(労働政策研究・研修機構　主任調査員)

• 働きつつ学ぶ通信制教育システムとは
－仕事・生活の経験を活かして仕事おこしの共有基盤を生み出そう－ …… 42
池上 惇(京都大学名誉教授)

海外レポート

【第２回】ニューヨーク市における労働者協同組合の現状② NMICとCFL …… 55
松本 典子(駒澤大学経済学部准教授/協同総研理事)

会員だより

「協同労働の協同組合」の意義－総研理事になって …… 63
曽我 逸郎(前長野県中川村村長/協同総研理事)

協同の広場

「ともに生きる社会づくり」を映画の力とともに実現する
～映画『Workers 被災地に起つ』上映運動の始まりから見えて来たもの～ …… 68
酒見 友樹(映画『Workers 被災地に起つ』上映運動実行委員会事務局/会員)

ワーカーズコープで働く若手リーダー紹介(Vol.23)

人との出会いから生まれたこと、変われたこと …… 74
矢藤 美紀(センター事業団　東京東部事業本部　亀戸のびっこ保育園　主任)

労協連だより　髙成田 健 …… 79

研究所だより　協同総研一同 …… 81

巻頭言

働き・学び・育ちが交差する、人間性の深まりと広がり

古村 伸宏（日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会理事長/協同総研常任理事）

AIやIoTをはじめとする新しいテクノロジーが、社会のあり方を変えはじめている。ドイツの「インダストリー4.0」が契機となり、各国が様々な新しいテクノロジーを活用した戦略コンセプトを打ち出し、日本においても新たな未来社会のコンセプトとして「ソサエティ5.0」が打ち出されている。これら産業的・社会的な近未来のコンセプトは、国家プロジェクトとして急速に普及しているが、総じてグローバリズムのあくなき追求の流れの中で捉えられている。しかし、「SDGs」に象徴される社会全体の「持続可能性」というキーワードも波及している。

社会の進化・発展は、人間が生き延びる術としての「産業」を必然としてきた。一方でそれは、人間の経験的で知的な学びの集積によって導き出された「知」の結晶でもある。それは、単に生き延びるだけではなく、「よりよく生きる」ために、社会を進化・発展させるという欲求があったはずである。ところが、「よりよく生きる」ための学びと知の結晶は、いつしか「儲ける」「独占する」「支配する」という欲望が支配するようになった。テクノロジーの発展は、このまま強欲を加速させるのか、欲望に制御と秩序を与えるものとなるのか、人類史の分水嶺に今があるように思う。

1980年のICAモスクワ大会に出された報告「西暦2000年の協同組合」。我々のあり方を大きく左右したこのレポートは、すでに40年近く経った今日の「狂気の時代」を警告していた。人間が己の欲望にのみ従って生きるとすれば、それは社会を破壊していく事につながる。分断と対立の関係が人生を覆い、欲望が強欲へと先鋭化することによる、人間性＝共に生きる術を失うことだ。人間が人間性を否定する事態の進行こそ「狂気」といえる。

一昨年の文科省が示した新しい学習指導要領には、「主体的で対話的で深い学び」というコンセプトがある。詳細な分析と議論は一旦横に置くとして、これまでの学びを転換し、これからの学びを創造するという意味において、先述の「学びの向かう先」が何なのか、ということに影響を及ぼすコン

セプトと感じる。すなわち、このコンセプトは「どう学ぶのか」というテーマとして捉えるに留まらず、「何のために学ぶのか」という、学びの先・学びの周辺・そして学びの根源を捉えるというテーマでもある。折しも今、オルタナティブな教育や新しい学校づくりが活況を呈している。多様なステークホルダーが関わるプロジェクト「未来教育会議」が発表している、「人一生の育ち（通称ひばり）レポート」や「2030年の未来の社会・教育シナリオ」（https://miraikk.jp/cat-01/3416）もまた、新学習指導要領のコンセプトと重なる。一方で一昨年施行された「教育機会確保法」は、多様な学びの場の必要性を一歩前に進め、フリースクールや夜間中学校など、学びの多様化と学ぶ権利を保障する多様な学びの場づくりを加速させていくだろう。

そして今、法制化が間近となった「協同労働」の特徴は、働く一人ひとりの「主体性」であり、その主体性を育む豊かな「協同の関係性」によって、底深い意味を持った「よい仕事」を創造し、多様性を認め合う持続可能な地域づくりに効果を発揮することである。「協同労働」の生命線は「話し合い（対話）」であり、「生命の尊厳」を真ん中に据えて、仕事の意味と価値を問い続けることである。そして、労働を閉ざされた従属から解き放ち、学ぶこと・くらすこと・生きることと深く交わり融合する営みへと発展させていく可能性を秘めている。昨年亡くなられた太田堯さんは、協同労働の挑戦を「未来的価値の創造」と評し、エールを送り続けて頂いた。また「命の特徴」を、①一人ひとりは「違う」、②様々な「関わる」、③折り合いの中で「変わる」と言われ、生命は自ら変わる「根源的自発性」に基づく「代謝の持続的変化」であり、学習過程であり、学習効果であると言われていた。労働の営みも正に、職場や地域において、「違いを認め合い」「関わりの中で」「変化・創造」していくものである。

画一的で従属的な位置に置かれた「学び」と「働き」を転換することは一つの事であり、一体的である。そしてその総和が「人間として育つ」ということであり、一人ひとりの「主権」を尊重し合う「共存」という価値観を育てるだろう。生まれながらに人間は依存から始まり、多様な相互支援の関係の中でこそ生き続けられる。人間の自立とは、こうした様々な相互支援関係が結ばれ、それぞれの個性を活かし合うこと。その力（術）を獲得することが学びであり、働くということだとしたら、欲望にまみれた社会を脱するヒントがそこにある。

こうした視点から、協同労働の法制

化を捉え、協同労働の営み・事業の意味や評価を考えていきたい。

以下は、今年度立ち上がった「労協連合会·SDGs推進本部『学びと育ち多様化探究プロジェクト』」出発にあたって掲げた方針であり、今年度から取り組みはじめている。

「協同労働× SDGs」推進のための研究・探求・実験

学びと育ち多様化探究プロジェクト

特に、人の「学びと育ち」に関わる課題は、狭い「教育」いう位置づけから抜け出し、「労働」「福祉」「環境」「文化」と融合していくような実践と政策が求められているのではないか。そして、人の一生を視野に入れた「学び・働く・育つ」を融合する実践の模索が、各所で始まろうとしている。

協同労働運動は、その本質に「働く」というテーマを据え、営む様々な事業を通して、組合員に留まらない、様々な人々の「学び・働く・育つ」と向き合う実践を進めている。こうした経験を土台とし、これからの持続可能性と多様性に満ちた、生命に中心価値を置いた「学び・育ち・働く」の融合的な実践を切り拓く構想を描くために、「学びと育ちの多様化」をテーマに、本プロジェクトは本質的・哲学的探究に取り組む。

そしてこのプロジェクトは、1年間の基本的探究活動を展開し、具体的な「学び・働く・育つ」統合的な場づくりの開発を構想するプロジェクトとして発展させていく。この構想は、従来の「学校づくり」を更に統合的・革新的に追求するものであり、協同労働の現場の発展の方向・可能性をも、この探求の成果によって切り拓いていく。

●今月の表紙

ワーカーズコープでは、年間を通して様々な研修を行っている。写真は、2018年度の「協同労働リーダー基礎研修会」で登米の自伐型林業の見学を行った時のもの。遠くから伐採された木の裁断作業を見上げる。

所報　協同の発見　1月号（通巻 314号）

2019年1月15日（毎月1回15日発行）
編集・発行／一般社団法人 協同総合研究所
代表／島村 博
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル7F
Tel 03（6907）8033　Fax 03（6907）8034
Email　kyodoken@jicr.org　　URL　http://jicr.org/
郵便振替口座　00140-7-552949

定価 1,300円（本体 1,204円）